

東洋電機工業 株式会社

DX宣言書

2024年10月18日
東洋電機工業 株式会社
代表取締役 皆川 英生

□ 経営理念

我々は企業の繁栄に努め社会に貢献する

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ デジタル技術を活用した情報の一元管理と業務プロセスの最適化を通じて、社会や顧客ニーズの変化へ柔軟に対応できる企業を目指します
- ◆ 社員の声を反映した業務改善を進め、社員が主体性を持って働ける職場環境を構築します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2025年3月)

戦略 「現状の把握と課題の洗い出しを行い、全体最適に向けた段階的な実行計画を策定」

- 施策
- ・ 手作業や重複作業が発生している箇所、既存ITツールの利用状況等、業務上の課題や現状を把握するため、各部署へのヒアリングやアンケート調査を実施し、業務の流れを可視化
 - ・ 上記調査結果をもとに具体的な課題を特定し、取り組みの優先順位を設定
 - ・ 特に、ITツール導入・活用で業務効率化や負担軽減が期待できる部分を優先的に着手し、改善効果を早期創出
 - ・ 業務の流れを見直し、既存ITツールを最大限に活用できるよう運用方針を策定
 - ・ バックオフィス業務の効率化を最初のステップとし、特定した課題と優先順位付けに基づき実行計画を策定
 - ・ 社内全体で一丸となって取り組むため、自社および他社のデジタル技術導入による成功事例を含めDX推進方針の説明会を実施

➤ フェーズ2(2025年4月 ～ 2026年3月)

戦略 「実行計画に基づき、まずはバックオフィス業務の効率化を推進」

- 施策
- ・ フェーズ1で策定した実行計画を推進していくためのDX推進チームを設置
 - ・ 実行計画に基づき、各部署で新しい業務の流れを運用
 - ・ 既存ITツールだけでカバーできない業務があれば、互換性を考慮した新規ITツールを選定・導入
 - ・ ITツールのスムーズな導入と活用を図るため、利用マニュアルを作成・整備し、勉強会を実施

➤ フェーズ3(2026年4月 ～ 2027年9月)

戦略 「社内全体へ業務効率化の取り組みを波及させ、情報の一元管理を実現」

- 施策
- ・ これまで各部署で実施してきた業務効率化の取り組みを社内全体へ段階的に波及
 - ・ ITツール間の連携を強化し、業務の流れを最適化することで、重複した入力作業を削減
 - ・ 情報の一元管理を実現し、必要な情報に迅速かつ簡単にアクセスできる環境を整備
 - ・ 社員が自由に業務改善案を投稿できる仕組みをオンライン上に構築
 - ・ 社員からの投稿をDX推進チームが中心に取りまとめ、経営層へ提案

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- ・ DX実行計画策定 : 完了(～2025年3月)
- ・ 業務改善提案数 : 年4件以上(2026年4月～)
- ・ 時間外勤務削減率 : 2023年度比 20%(～2027年9月)
- ・ 人時生産性 : 2023年度比 6%増(～2027年9月)